

学長定例記者会見要項

日 時： 2019年3月4日（月） 11：00～11：45

場 所： 法人本部第一会議室（小白川キャンパス法人本部棟3階）

発表事項

1. 全国教育美術展で附属小学校が文部科学大臣賞受賞
～国内伝統の美術展で学校賞、個人賞にも26名が該当～
2. 蔵王の樹氷は今後もみられるのか？
～オオシラビソ（アオモリトドマツ）林の衰退と再生に向けて～
3. 地元畜産農家と連携した豚の肥育を新たに開始
～スマート・テロワールブランドを大学から地域へ展開～
4. YUハートサポーター（障がい学生支援スタッフ）の活動について
～誰もがいきいきと学ぶキャンパスのために～
5. “やわらかな” ロボット開発に向け、異分野連携で研究加速へ
～ロボット研究×材料研究 合同シンポジウムを開催～

お知らせ

1. テーマは学生目線 新・合同企業説明会を開催
～就活シーズン到来の3月 参加企業約300社を5つのエリアで紹介～
2. 高校生対象「世界へトビタテ！ー山形から留学を考えるー」を開催
3. 「8年目のCandle night」を開催
～Candle Night in 鶴岡 つながる灯火 on 3.11～
4. シンポジウム「戦後日本の写真史と文化運動」開催
5. 山形大学学位記授与式等の取材に対するお願い
6. 「山形大学SCITAセンターサイエンスカフェ」を開催

（参 考）

- 次回の学長定例記者会見（予定）

日 時：2019年3月19日（火） 14：00～14：45

場 所：法人本部第二会議室（小白川キャンパス法人本部棟4階）

学長定例記者会見（3月4日）発表者

1. 全国教育美術展で附属小学校が文部科学大臣賞受賞

～国内伝統の美術展で学校賞、個人賞にも26名が該当～

附属小学校 教諭

あらがき やすし
荒垣 靖

// 6年

あべりょうや
阿部 稜也

// 3年

きむらよしか
木村佳嘉

2. 蔵王の樹氷は今後もみられるのか？

～オオシラビソ（アオモリトドマツ）林の衰退と再生に向けて～

学術研究院 教授（森林保全管理学）

はやしだみつひろ
林田光祐

3. 地元畜産農家と連携した豚の肥育を新たに開始

～スマート・テロワールブランドを大学から地域へ展開～

学術研究院 教授（農学部附属やまがたフィールド科学センター担当）

うらかわしゅうじ
浦川修司

農学部 4年

さいとう ゆか
齋藤柚香

//

くらしし このみ
倉石 好

4. YUハートサポーター（障がい学生支援スタッフ）の活動について

～誰もがいきいきと学ぶキャンパスのために～

地域教育文化学部 4年

さとうしょうけん
佐藤彰賢

人文学部 3年

くだいらまこ
工平真子

人文社会科学部 2年

なかむら
仲村ゆうな

5. “やわらかな”ロボット開発に向け、異分野連携で研究加速へ

～ロボット研究×材料研究 合同シンポジウムを開催～

学術研究院 教授（機械・高分子・ソフトマター）

ふるかわひでみつ
古川英光

平成31年（2019年）3月4日

全国教育美術展で附属小学校が文部科学大臣賞受賞 ～国内伝統の美術展で学校賞、個人賞にも26名が該当～

【本件のポイント】

- 第78回全国教育美術展（主催：公益財団法人教育美術振興会）で、内閣総理大臣賞に次ぐ「文部科学大臣賞」を山形大学附属小学校が受賞
- 同美術展は1922年に全国図画展として開始、国内で最も伝統のある子どもの美術展として幼稚園から中学校、特別支援学校などで親しまれている
- 個人でも特選に8名、入選に18名が選出され個人賞を受賞した



【概要】

国内で最も伝統のある子どもの全国美術展として各学校園に親しまれている「全国教育美術展」（主催：公益財団法人教育美術振興会）で、山形大学附属小学校が文部科学大臣賞を受賞しました。同賞は、内閣総理大臣賞に次ぐ学校賞で、全国の幼稚園・小学校・中学校から各1校ずつに贈られています。

個人としても、特選約2,200点のうち、厳選された109点に選ばれた阿部稜也さん（6年）、木村佳嘉さん（3年）をはじめ、特選8名（全体約2,200点）、入選18名（全体約9,200点）が個人賞を受賞するなど、各児童の個性的でエネルギー溢れる作品が高い評価を受けました。

【第78回 全国教育美術展】

- ▶主催：公益財団法人教育美術振興会 後援：文部科学省、各都道府県教育委員会ほか
- ▶募集対象：幼稚園・保育所・認定こども園、小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校（前期課程）、海外日本人学校、特別支援学校
- ▶募集作品：教室の学習から生まれた子どもの創造的な作品（絵・版、デザインなどの平面作品）
- ▶応募点数（小学校）：各学年20点以内で1校の合計120点以内（1人1点）

【表彰】 応募点数：114,366点

学 校 賞	内閣総理大臣賞	各賞 3校 (幼・小・中 各1校)	個 人 賞	特選	約2,200点
	文部科学大臣賞			入選	約9,200点
	教育美術振興会名誉会長賞			佳作	約6,100点
	日本放送協会会長賞				
	特別支援学校賞				
	教育委員会賞				
教育美術奨励賞	約 60校				

※詳細は、教育美術振興会のホームページをご覧ください。

<http://www.kyoubi.or.jp/exhibition.html>

お問い合わせ
山形大学附属小学校 教諭 荒垣 靖
TEL. 023-641-4444

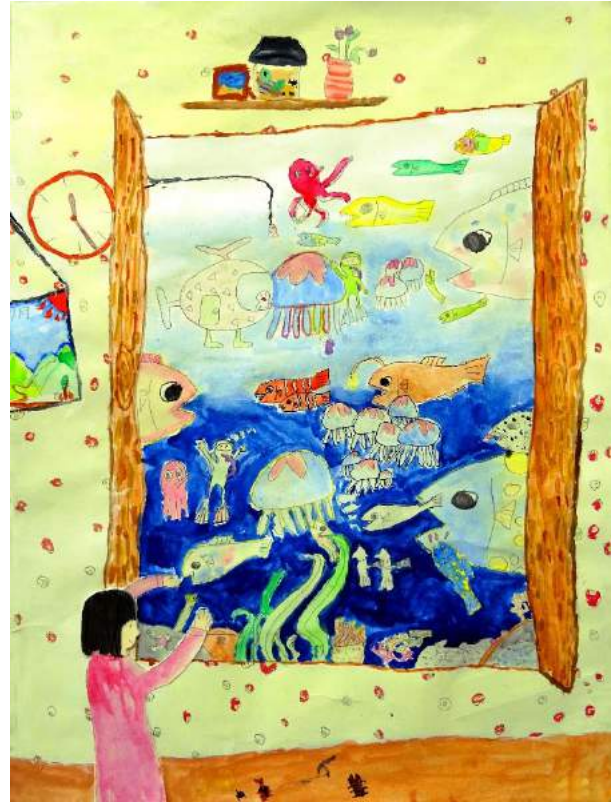
【特選受賞作品の紹介】



作品：×切間近のぼく
作者：阿部稜也さん（附属小学校6年）

コメント：

ぼくの将来の夢は、マンガ家になることです。10年後の自分を想像して描きました。足を組ませることでマンガを描くのに夢中になっていることを表現しました。こだわった点は、マンガ家の仕事の様子が分かるように、斜め上から見下ろす構図にしたところ。絵の具の明るさを変えて塗ることで、机や椅子が立体的に見えるように工夫しました。



作品：まどを見ていると・・・海！
作者：木村佳嘉さん（附属小学校3年）

コメント：

ひとつひとつの生き物や、変化する海の色を一生けん命に描きました。部屋の中の虫かごや、床にいる虫たちも大好きな生き物ですので、じっくりと見てください。

平成31年（2019年）3月4日

蔵王の樹氷は今後もみられるのか？

～オオシラビソ（アオモリトドマツ）林の衰退と再生に向けて～

【本件のポイント】

- 集団枯損が発生した蔵王連峰のオオシラビソ^(※1)林の現状を初めて広域で調査。
- 冬季の観光スポットである地蔵岳上部の西側斜面ではすべて枯死しており、後継木も存在しないことから、今後の天然更新^(※2)は困難であることが判明。
- 標高の低い健全な森林でも後継木は少ないため、再生方法の開発が急務。



【概要】

山形大学学術研究院の林田光祐教授（森林保全管理学）は、近年集団枯損が発生している蔵王連峰のオオシラビソ（アオモリトドマツ）林の現状把握と再生に向けた研究を山形県森林研究研修センターと共同で2018年より開始した。標高の高い西側斜面で被害が激しく、これらの被害地の多くは後継樹が存在しないことから、オオシラビソ林が自然に再生することは困難であることが今年度の研究から判明した。これらの成果は3月20～23日に新潟市で開催される第130回日本森林学会大会において発表する。これらの実態を踏まえた被害林の再生に有効な方法の開発も同時に進めており、今後の成果が期待される。

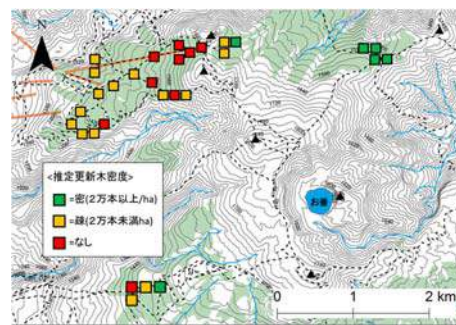
【背景】

蔵王連峰のオオシラビソ林では、2016年からトドマツノキクイムシによる穿孔被害で枯損木が増加しており、集団枯損被害の拡大が危惧される。冬季に樹氷が形成される同種の森林は重要な観光資源であるため、被害林の次世代への更新は喫緊の課題である。

【研究手法・研究成果】

山形県側のオオシラビソ林約600ha全域を対象に衛星写真を用いてオオシラビソの枯損木を判読して全域の被害マップを作成した。その結果、枯損率80%以上の区域は標高1550～1700mの高標高域に集中していた。

100㎡調査区を30か所設置し、さらに各調査区の内部に4㎡方形区を3か所ずつ計90か所設置して、すべてのオオシラビソ個体と植生の調査を行った。その結果、後継木となりうるオオシラビソの稚樹などの更新木は西側斜面で少なく、高標高のチシマザサが密生する場所ではまったく見つからなかった（右図）。ササがない地域や少ない場所では高密度の更新木が生育していたが、きわめて局所的であり、ほとんどの地域で更新木が少ないことが明らかになった。



【今後の展望】

標高の低い健全な林でも後継木は少ないことから、後継木となる稚樹を増やす有効な方法を2020年度までに開発し、被害地の更新状況に応じた再生方法を提案する予定である。

※ 本研究は東北森林管理局（農学部との連携協定）と蔵王ロープウェイ株式会社の協力を得て実施している。

※用語解説

1. オオシラビソ：別名をアオモリトドマツと呼ぶマツ科モミ属の常緑針葉樹。学名は *Abies mariesii*
2. 天然更新：植栽をせずに自然に落下した種子や萌芽などから樹木を育成して森林の再生をはかる方法。

お問い合わせ

学術研究院教授 林田光祐（森林保全管理学）
メール hayasida@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp
山形大学鶴岡キャンパス事務室企画広報室
TEL 0235-28-2911

平成31年（2019年）3月4日

地元畜産農家と連携した豚の肥育を新たに開始 ～スマート・テロワールブランドを大学から地域へ展開～

【本件のポイント】

- 2016年に農学部へ設置した寄附講座「食料自給圏（スマート・テロワール）形成講座」では、規格外農産物を利用した豚の肥育とハムやソーセージなどの加工品を製造、販売中。
- 2019年度からは地元鶴岡市の畜産農家でも、同じエサ、同じ肥育方法で豚の飼育を新たに開始。
- 大学で確立した技術を生産現場に移転することで、ハム・ソーセージの供給拡大とともに、スマート・テロワール構想を地域へ展開します。

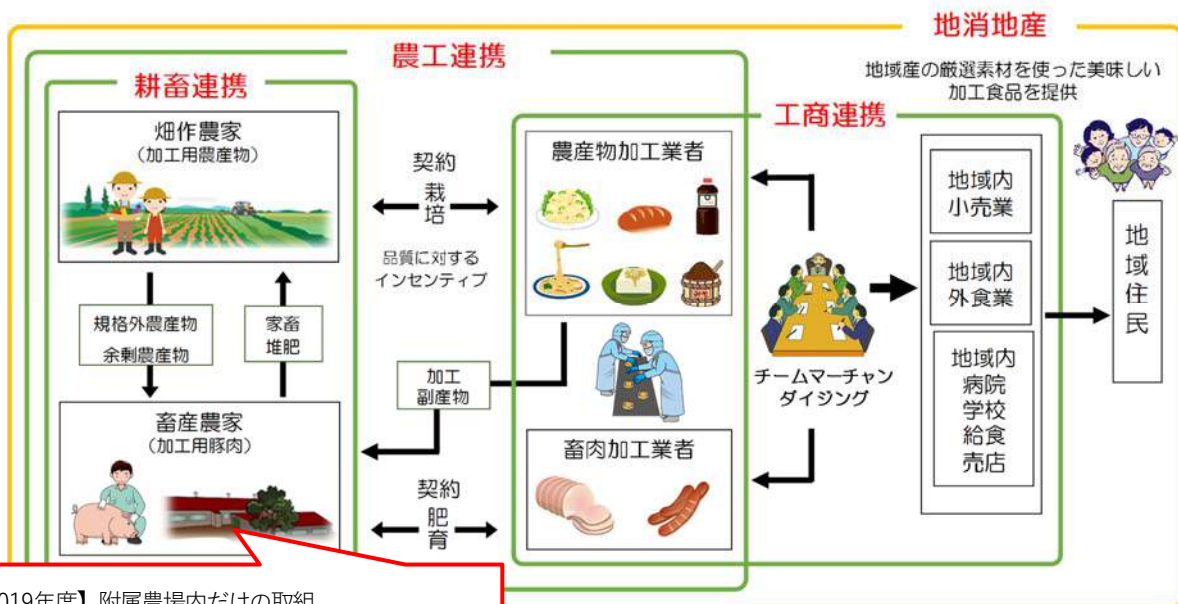


【概要】

農学部では、カルビー株式会社元相談役・故松尾雅彦氏のご支援により、寄附講座「食料自給圏（スマート・テロワール）形成講座」を2016年から開設しています。このプロジェクトでは、地元農家（畜産農家や畑作農家）、食品加工業者や小売業者と連携し、規格外農産物（じゃがいもや大豆など）をエサに利用して肥育した豚をハムやソーセージに加工して、地元で販売しています。

これまでに、規格外農産物の飼料化技術の開発や豚の肥育試験を行うとともに、その豚肉を利用したハムやソーセージの試作と改良を重ねてきました。2018年には地元スーパーでの常時販売を開始しています。これまでは大学の農場だけで豚の肥育を行っていましたが、3月からは地元畜産農家でも同じ肥育方法で豚の肥育を開始します。今後は、「山形大学」+「スマート・テロワール」のWブランド商品として、庄内で取れたエサを利用し、庄内で豚を育て、庄内で加工し、庄内で販売する、オール庄内の加工品展開を目指していきます。

【スマート・テロワールの全体像】



【～2019年度】 附属農場内だけの取組

- ▶豚の出頭数：約45頭/年
- ▶ソーセージ等の販売額：約450万円/年

【2019年度～】 地元畜産農家と連携

- ▶豚の出頭数（見込み）：約70頭/年
- ▶ソーセージ等の販売額（見込み）：700万円/年

お問い合わせ

学術研究院（農学部附属やまがたフィールド科学センター担当）
教授 浦川修司 TEL. 0235-24-9981

【ハム・ソーセージの供給体制（地元畜産農家・加工メーカー・スーパーと連携）】



- ・ 鶴岡市と酒田市の2店舗に商品を納品（2回/月、1頭分/1回/1店舗）
- ・ 各商品の小売価格は約300円/パック（ウインナー：200g/パック、ロースハム：72g/パック、ベーコン：80g/パック）
- ・ 2018年度の販売合計数量は約15,000パック

【今後のスケジュール】

- ▶ 2019年3月上旬：地元畜産農家（加藤畜産）へ「スマート・テロワール指定配合飼料」を供給
地元畜産農家（加藤畜産）で豚の肥育を開始（約20頭）
- ▶ 5月下旬：豚の出荷
- ▶ 6月上旬：地元畜産農家で肥育した豚肉で加工したソーセージ等の販売開始

【参考】

※「スマート・テロワール」

松尾雅彦氏が著書の中で提唱しているもので、英語のスマート（洗練された、賢い）にフランス語の「terre（テラ）」から派生したテロワールを組合せた造語。特にテロワールとは、土壌や気象を含めた総合的な生育環境のことで、独自の気候風土を共有する地域環境を表しています。本講座では畑作と畜産の連携を図って農畜産物を生産し（耕畜連携）、さらに加工業者と一体となって厳選素材を利用した加工食品を製造し（農工一体）、地域内で販売（工商連携）・消費することで（地消地産）、全てを地域内で完結できる循環型の経済圏を形成することを目的としています。

地元畜産農家と連携した豚の肥育を新たに開始

～スマート・テロワールブランドを大学から地域へ展開～



穀物調製調査棟



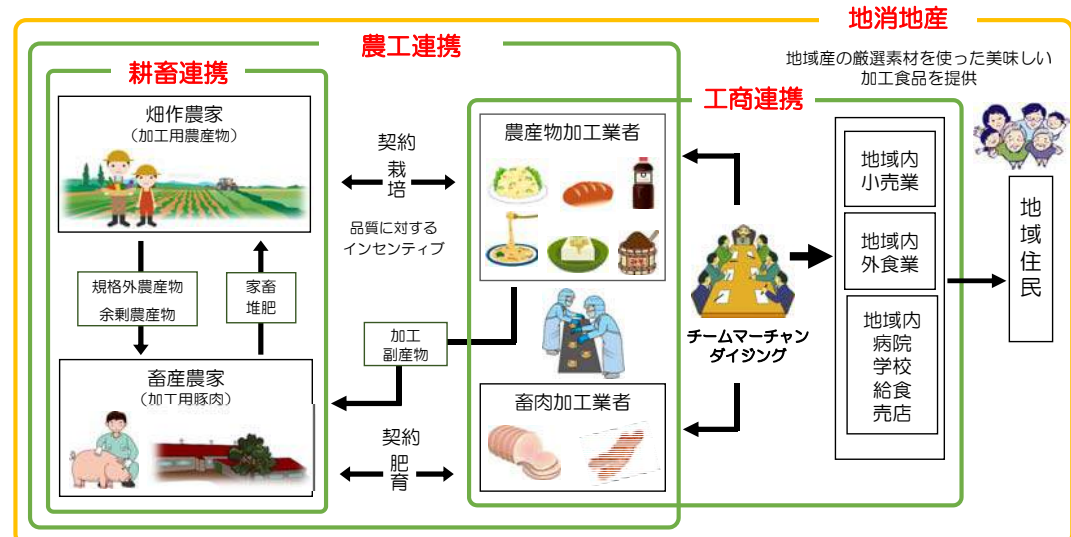
実験用肥育豚舎

「スマート・テロワール」形成のための山形大学の主要施設

山形大学農学部
やまがたフィールド科学センター
浦川 修司

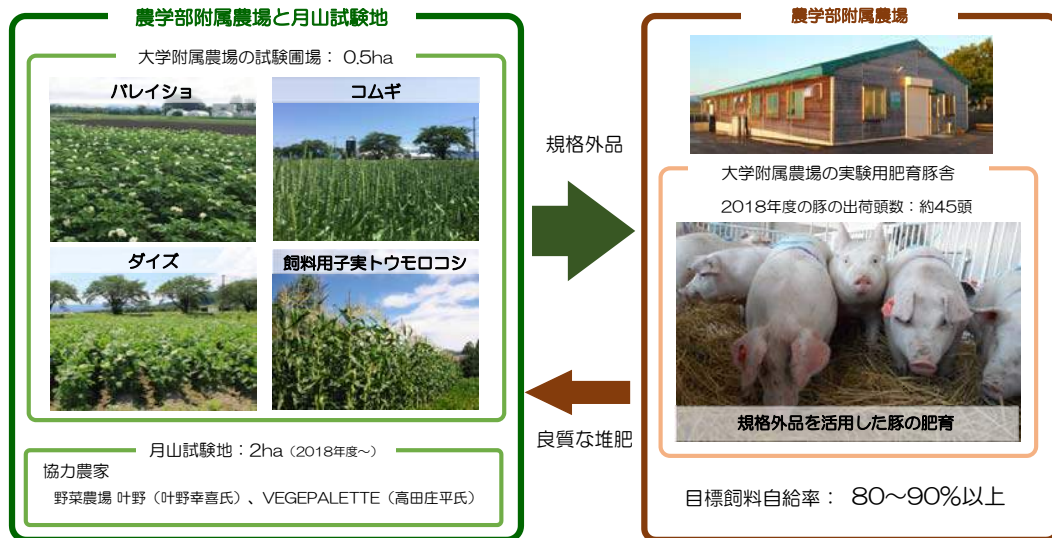
「スマート・テロワール」の4つのピースと山形大学の役割

- ・畑作農家と畜産農家が連携して余剰水田を永久畑地化して穀物と畜産物を生産（耕畜連携）
- ・地元の加工メーカーが農業者と連携して地域産原料を用いて美味しい加工食品を製造（農工連携）
- ・地元のスーパーが加工業者と連携して（工商連携）、美味しい加工食品を地域住民に提供（地消地産）



日本でも有数の稲作地帯の庄内地域で行う“畑作物と畜産を基軸とした検証プロジェクト” ⇒ 中心となるのが山形大学

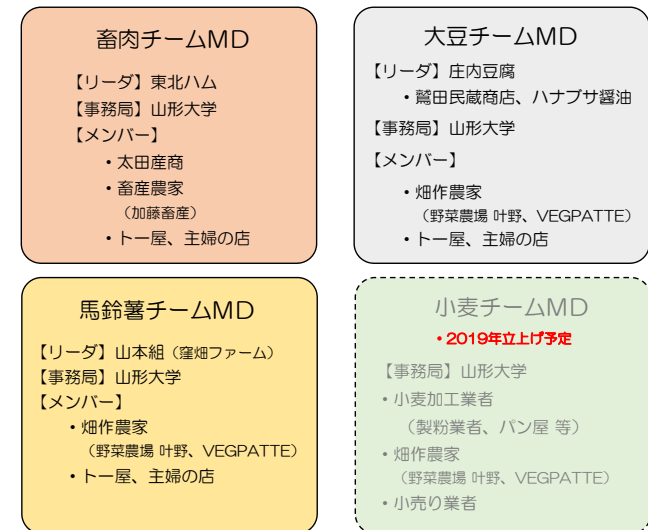
スマート・テロワールの一つの柱 “耕畜連携”



<高品質多収技術の確立と畑作体系の構築>

<規格外農産物の飼料化と豚の肥育技術の確立>

スマート・テロワールのもう一つの柱 “農工連携” と “工商連携”



4つのチームマーチャングデザイン (チームMD) の構成メンバー

(注) チームマーチャングデザイン (Team Merchandising) 加工メーカー・卸・小売などがチームとなって商品開発などを行うこと。流通チャネルの川下に位置する小売業が商品開発にかかわることで消費者ニーズを商品に直接反映させ、実需に基づいた生産や出荷を柔軟に行うことができる。

耕畜連携・農工連携・工商連携で出来上がった山大ブランドの畜肉加工品

庄内で取れたエサを利用し、庄内で豚を育て、庄内で加工し、庄内で販売



大好評発売中!

各商品
約300円/パック



80g/パック

72g/パック



200g/パック

山大ウィンナーの美味しさを科学する!

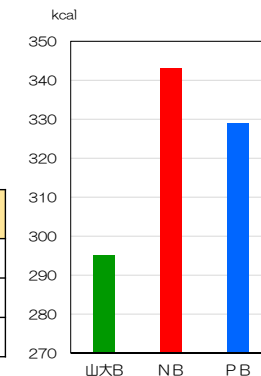


ウィンナーソーセージの基礎成分の比較

商品	水分	タンパク質	脂質	炭水化物	食塩相当量	灰分
山大ブランド (山大B)	56.5	13.6	26.0	1.6	1.98	2.3
ナショナルブランド (NB)	51.9	12.5	31.8	1.6	1.94	2.2
プライベートブランド (PB)	53.0	13.2	29.7	2.1	1.69	2.0

↑
ジューシー感

↑
脂っこさ



↑
低カロリー

**ジューシー感があるが
脂っぽくなく、ヘルシー!**

山大ウィンナーの美味しさを科学する!

ウィンナーソーセージの物理性の比較

商品	初めて噛むときの食感 (ひと噛みめ)				飲み込める状態に咀嚼するまでの食感		
	やわらかさ	しなやかさ	噛みごたえ	もろさ	硬さ	凝集性	弾力性
山大B	4,283,200	1.35	1,129,040	1.71	82,144	0.19	84.1
NB	3,336,800	1.33	759,520	2.13	85,384	0.14	70.1
PB	3,267,400	1.28	730,540	2.36	95,836	0.18	86.9

↑
ケーシングの有無や種類、乾燥工程の影響
羊腸ケーシングの違い、処理の違い

↑
カッティング程度や赤身と脂身の割合の影響
粗挽き or 細挽き

(山大B : NB、PBより細挽き)



**皮の歯切れが強く、噛み応えはあるが
咀嚼しやすく、飲み込みやすい!**

山大ウィンナーの美味しさを科学する!

ウィンナーソーセージの旨味成分の比較

商品	旨味系			風味系		甘味系					コク味
	核酸関連物質 イノシン酸	グルタミン酸	アスパラギン酸	バリン	メチオニン	グリシン	アラニン	スレオニン	セリン	プロリン	カルノシン
山大B	検出せず	83.4	1.5	3.7	2.6	4.7	12.4	2.2	2.9	8.0	87.8
NB	4.2	75.6	0.6	2.5	1.3	3.8	10.3	1.9	2.5	6.8	68.4
PB	検出せず	69.2	0.1	2.1	1.1	3.5	11.7	1.5	1.8	6.2	71.9

↑
調味料の由来?

↑
原料肉の由来?

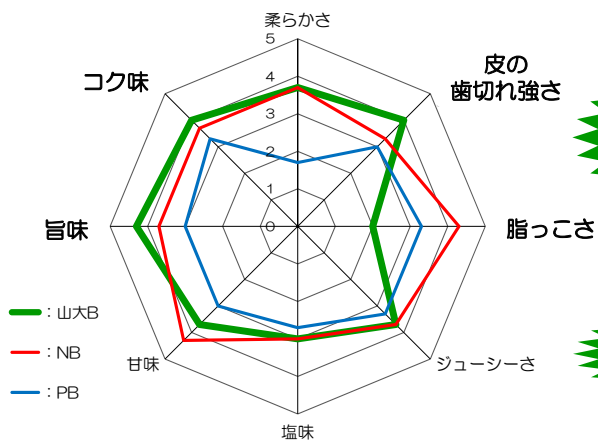


カルノシン酸
筋肉中に多く含まれる。
庄内豚の特徴 or エサの影響か?

旨味とコク味がある!

プロの官能検査員が山大ワインナーの美味しさを評価！

分析：（一社）食肉科学研究所



一口噛んだ時の
歯切れが強く、パリッとしているが、
咀嚼していると、
ほどけやすく、柔らかい！

脂っぽくなく、あっさりしているが
旨味とコクがある！

ウイナーソーセージの官能評価のレーダー図

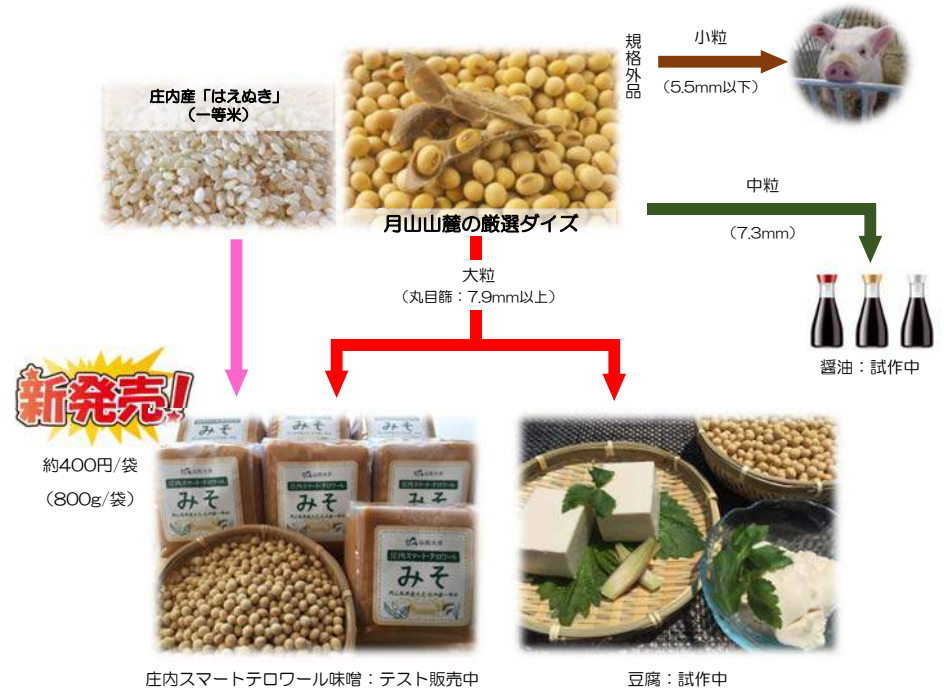
	おいしさの 総合評価
山大ブランド（山大B）	4.0
ナショナルブランド（NB）	4.0
プライベートブランド（PB）	2.7



地元畜産農家と連携した豚の肥育を新たに開始



ダイズの加工品も開発中



“Wブランド”として大学から地域へ展開！

「山形大学ブランド」 から Wブランドへ



畑作農家と畜産農家、加工メーカー、スーパー等の収益性等を検証
（スマート・テロワールでは「互酬経済」）

- 畜肉加工品：サプライチェーン マネージメントを整備
- ダイズ加工品：マーケティング戦略の構築と推進
- バレイショ・コムギ製品：加工アイテムの選定

農学部附属高坂農場（ラボラトリー農場）
現地試験地（プロトタイプ農場）

一体となった実証実験を展開

消費者を含めた地域の皆さまとの連携が必要
引き続き、ご協力をお願いいたします。

2019年3月4日

YUハートサポーター（障がい学生支援スタッフ）の活動について ～誰もがいきいきと学ぶキャンパスのために～

【本件のポイント】

- 山形大学では、支援技術を身につけた学生YUハートサポーターが、障がい学生への受講上の支援などを担当。
- 障がいのある学生も支援を利用するだけでなく、YUハートサポーターとして支援活動の一翼を担っている。
- 障がいのある学生もない学生もYUハートサポーターの活動を通して、「障がいとは何か?」「共生とは何か?」をともに考え学び合う



▲運動障がい学生へのポイントテイク支援及び移動支援

【概要】

障がい学生、特に視覚や聴覚、手足などに障がいのある学生が授業を受けるためには、さまざまな人的サポートが必要です。山形大学では、障がい学生への人的サポートを担う学生（YU ハートサポーター）を養成し、障がい学生の希望に応じた支援を提供しています。

現在、YU ハートサポーター数は47名、支援を利用している障がい学生は2名います。主な支援内容は、運動障がい学生へのポイントテイク支援および移動支援、聴覚障がい学生へのパソコンノートテイク支援です。障がい学生支援センターが、障がい学生の希望する支援内容や時間帯とYU ハートサポーターの支援可能な時間帯をとりまとめ、YU ハートサポーターは障がい学生支援センターからの依頼に応じて活動しています。この支援活動は、大学から給与が支払われる有償ボランティア活動です。

YU ハートサポーターは障がいのない学生だけが登録しているわけではありません。障がいのある学生も支援を利用するだけでなく、養成講座のスタッフや他の障がい学生の支援を担当するなどYU ハートサポーターとして活動しています。障がいのある学生もない学生もYU ハートサポーターの活動を通して互いに理解を深め、「障がいとは何か?」「共生とは何か?」をともに考え、学び合っています。

【背景】

2016年4月に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行されました。これにより、大学等においては、障がい学生が他の学生と同様に教育を受けられるよう、障がい学生の求めに応じて合理的配慮を提供することが義務化されました。

山形大学では2015年度に障がい学生支援センターを設立し、2016年度からYUハートサポーターによる支援活動を本格的にスタートさせました。障がい学生支援センターでは、障がいごとに「障がい学生支援技術養成講座」を開講し（年に複数回）、現在までに延べ約100名のYUハートサポーターを養成しています。

【主な活動内容】

- ①障がい学生への授業上の支援
 - ・運動障がい学生への支援：ポイントテイク支援および移動補助
 - ・聴覚障がい学生への支援：パソコンノートテイク支援
 - ・オープンキャンパスにおける障がいのある参加者への支援
- ②安心して生活できるキャンパス作り
 - ・雪かき支援（車椅子使用学生が安全に建物へアクセスできるよう、入り口付近を中心に除雪）
 - ・バリア調査（車椅子使用学生が利用する教室や建物までのアクセスを調査し、改善要望を大学・学部へ提出）

お問い合わせ

学術研究院 講師（障がい学生支援センター担当） 有海 順子

TEL 023-628-4922 メール shougai-shien@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

③よりよい支援を目指した活動～YU ハートサポーター同士の交流～

よりよい支援活動には支援を利用する側と提供する側の信頼関係が重要です。学期末に反省会も兼ねた交流会を実施し、利用学生と YU ハートサポーター同士の交流を図っています。

【今後の展望】

YU ハートサポーター学生数の維持と支援の質的向上が今後の課題です。今後、人的サポートを必要とする障がい学生が増えた場合でも支援の希望に添って必要な支援を提供できるよう、YU ハートサポーターの養成に力を入れたと考えています。

また、養成講座以外にも勉強会やスキルアップ講座などを障がい学生支援センターとともに企画し、支援の質的向上を目指します。さらに、他大学の障がい学生や支援学生との交流・情報交換を行い、山形大学の YU ハートサポーター活動を発展させていきたいと考えています。

※用語解説

1. ポイントテイク支援：運動障がい学生への支援の1つ。障がい学生とともに授業に参加し、障がい学生の代わりにノートをとる支援。
2. パソコンノートテイク支援：聴覚障がい学生への情報保障支援。障がい学生の隣席で、授業者の発話等をパソコン入力で文字化し、聴覚障がい学生に伝える支援。聴覚障がい学生はパソコンノートテイク支援を基に自分のノートをとる。

※参考

山形大学 障がい学生支援センター <https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/scsd/>

山形大学では、障がい学生の求めに応じて合理的配慮を検討し、提供しています。障がい学生支援センターでは、障がい学生への合理的配慮に関する相談対応と助言、YU ハートサポーターの養成、障がい理解啓発の役割を担っています。

平成31年（2019年）3月4日

“やわらかな”ロボット開発に向け、異分野連携で研究加速へ ～ ロボット研究×材料研究 合同シンポジウムを開催 ～

【本件のポイント】

- 人と親和性の高いロボットの開発に向け、ロボット研究者と材料研究者による合同シンポジウムを初めて開催
- 本学の強みである有機材料・有機半導体の「ソフト材料学」と、新学術領域「ソフトロボット学」という、異分野のトップランナーが連携することで、相乗効果、研究の加速、国際的な研究拠点形成が期待される。



【概要】

超スマート社会 Society5.0 の実現に向けては、柔らかく・優しく・作りやすい・エネルギーがかからない・どこでも電気を蓄えられる機能性有機材料が必須となります。山形大学 OPERA は、分子創製の無限の可能性を真に活用し、(1)ソフト機能材料・デバイス、(2)ソフトセンシング、(3)ソフトメカニクス、(4)ソフト蓄電デバイス、さらにそれらを融合した(5)社会システム・ソフトマターロボティクスの5テーマで、有機材料の極限的な機能創出の学問的な挑戦と革新的な産業の創出を目指します。また、これらの基盤技術の構築により、ロボット分野で人・モノ・情報・人工知能を優しくつなぐ新領域ソフトマターロボティクスの開拓が期待されます。2016年に開始した山形大学 OPERA 「ソフトマターロボティクスコンソーシアム」と、2018年に開始した科研費新学術領域「ソフトロボット学」が連携し、平成31年3月20日（水）13時から合同シンポジウムを開催します。ロボット研究者と材料研究者による異分野連携を実現し、新学術領域の研究がますます加速し、世界に伍する研究拠点形成につながることを期待されます。

【背景】

20年後には世界の人口が70から90億人となり、高齢化の割合も7から15%へと変化します。都市化が進み、生活水準が向上し産業は製品製造・サービス産業へさらに幸福度・感性向上産業へと産業構造及び市場価値が変遷していくと考えられます。特にIoT、ビックデータ、AI、ロボットに代表される第4次産業革命における新産業創出が期待されております（例えば、日本再興戦略2016）。例えばロボットの場合、その多様性は広く、ものづくりだけでなく、医療、介護にもその用途は広がっており、かつ今後もその裾野が広がると考えられます。しかしながら現在の硬い素材により構成された従来のロボットでは、その適応範囲は限られます。生産現場だけでなく、人とのコンタクトを有する分野で今後の活躍が期待されており、人とのコンタクトは無機質なものではなく、さわ心地やしなやかさなどの快適性も求められます。さらに、ロボットが誤作動した時の安全性、人と同じ生活空間で活動できる重さ・大きさも重要となってきます。

【これまでの取り組み】

山形大学では従来のロボット分野とは一線を画し、人に近い“やわらかな”材料により形成される「ソフトマター・ロボティクス」という概念を創造し、2016年にJST* OPERA プログラム**に採択され、産学一体となり新領域の研究に取り組んでいます。

2018年には、文部科学省 科学研究費補助金「新学術領域研究（研究領域提案型）」に、山形大学学術研究院 古川英光教授が参画する「ソフトロボット学の創成：機電・物質・生体情報の有機的融合」（領域代表者：東京工業大学 鈴森康一教授）が採択され、革新的・創造的な学術研究の発展が期待される研究領域として、基礎研究分野からも取り組まれることになりました。

JST*：国立研究開発法人科学技術振興機構 OPERA プログラム**：産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム

【研究成果】

従来のハードなロボットと比較して、ソフトマター・ロボティクスの特徴として、超小型化、自己分解性が挙げられます。ソフトマター・ロボティクスが優位なロボットの応用例として、サーチロボット（ミミズ型・クラゲ型）をメインとし、第一世代の試作を進行しております。

ミミズ型サーチロボは、他方式では達成が困難な 10mmΦ極細配管への対応が可能。蠕動運動により前進が可能であり、原理を確認完了したフェーズとなっております。

クラゲ型ロボットは、海洋調査として大量に放ち自己分解により回収が必要ない群ロボットを想定。センター・有機EL・アクチュエータの集積化技術獲得の場としても位置づけ。癒やし・アミューズメント分野への展開も利用可能と考えられます。

これらの成果は、国際ロボット展をはじめとした様々な機会を通じて情報発信しています。



ミミズ型ロボット



クラゲ型ロボット



国際ロボット展2017の出展の様子

【「ソフトロボット学」×「ソフトマターロボティクスコンソーシアム」合同シンポジウム】

山形大学 OPERA「ソフトマター・ロボティクス」は、本学の強みである有機材料・有機半導体などのソフト材料学からロボット研究にアプローチするものです。生物の特長を備えたやわらかいロボットの研究を推進する科研費新学術領域「ソフトロボット学」と連携することにより、連携機会の少ないロボット研究者と材料研究者を繋ぎ、異分野連携を実現し、研究組織としての相乗効果、研究加速、世界に伍する研究拠点形成が期待されます。

両プログラム連携の場として、科研費新学術領域「ソフトロボット学」×山形大学 OPERA「ソフトマターロボティクスコンソーシアム」合同シンポジウムを開催し、これまでの研究成果を報告します。

■日時：平成 31 年 3 月 20 日（水）13:00～

■場所：TKP ガーデンシティ PREMIUM 神保町

（東京都千代田区神田錦町 3-22 テラススクエア 3 階）

■参加費：無料（交流会参加費 3,000 円）

■申込み方法：WEB 申込み（3/13 締め切り）

https://iomform.yz.yamagata-u.ac.jp/form/event-entry.cgi?p=24&preview_pass=idc0xPEnHpc

■プログラム：

基調講演

「ソフトロボット学がめざすもの」

東京工業大学大学院

鈴木 康一 教授

発表&パネルディスカッション

東京大学大学院情報理工学系研究科

新山 龍馬 講師

東京大学大学院情報理工学系研究科

中嶋 浩平 特任准教授

東北大学大学院情報科学研究科

多田隈 建二郎 准教授

山形大学学術研究院

古川 英光 教授（ファシリテーター）

山形大学学術研究院

時任 静士 教授

山形大学学術研究院

山口 昌樹 教授

三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング(株) 重田 雄基 研究員



お問い合わせ 山形大学有機エレクトロニクスイノベーションセンター事務室 内藤
電話 0238 29 0566 Mail kouinoel@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

2019年3月20日(水)13:00～

第1回

ソフトロボット

創世シンポジウム

科研費新学術領域

ソフトロボット学

山形大学OPERA 共創プラットフォーム型研究領域

ソフトマターロボティクス

ソフトロボット学とは

生体システムのもつ「やわらかさ」に注目し、生体システムの価値観に基づいた自律する人工物の創造を目指します



イメージキャラクター「ソフモ君」

ソフトマターロボティクスとは

山形大学が提唱する新概念。やわらかな先端材料を駆使して人間や自然と親和し共生する未来のロボット創成を目指します



ソフト蓄電デバイス



ソフトメカニクス



ソフト機能材料・ソフトセンシングデバイス



やわらかロボット 新時代の始まりを見逃すな!

TKPガーデンシティPREMIUM神保町

(東京都千代田区神田錦町3-22 テラススクエア 3階)

TEL: 03-3518-8870 (事務所直通)

参加費: 無料 (交流会参加費 3,000円)

申し込み方法: WEB 申込み (3/13 締め切り)

<https://opera.yz.yamagata-u.ac.jp/form/5th-symposium>

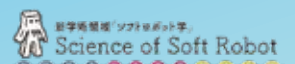


基調講演



「ソフトロボット学がめざすもの」

東京工業大学 工学院 教授
鈴木 康一 教授



研究発表 & パネルディスカッション



東京大学大学院
情報理工学系研究科
新山 龍馬 講師



東京大学大学院
情報理工学系研究科
中嶋 浩平 特任准教授



東北大学大学院
情報科学研究科
多田 建二郎 准教授



山形大学学術研究院
古川 英光 教授
(ファシリテーター)



山形大学学術研究院
時任 静士 教授



山形大学学術研究院
山口 昌樹 教授



三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)
政策研究事業本部 経済政策部
重田 雄基 研究員

交流会
17:30～19:00
(参加費 3,000円)

問い合わせ先

山形大学 有機エレクトロニクスイノベーションセンター事務局
[Tel] 023-829-0566 [Email] kouinoel@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

2019年3月4日
山形大学

*詳細は別添の資料をご覧ください。

1. テーマは学生目線 新・合同企業説明会を開催

～就活シーズン到来の3月 参加企業約300社を5つのエリアで紹介～

2020年3月卒業・修了予定の大学3年生、大学院1年生を主な対象とした合同企業説明会を開催します。学生の意見をもとに大幅なリニューアルを行い、学生が情報を求めやすい企業説明会を企画しました。

日程：2019年3月12日（火）～13日（水）

会場：山形ビックウイング（山形市）

2. 高校生対象「世界へトビタテ！—山形から留学を考える—」を開催

山形県内の高校生を対象に、大学入学後の留学への機運を醸成するため、本学で体験できる留学プログラムを紹介するイベントを学生が企画しました。

日時：2019年3月16日（土）13:00～16:00

場所：山形大学小白川キャンパスA5（基盤教育3号館）312教室

3. 「8年目のCandle night」を開催～Candle Night in 鶴岡 つながる灯火 on 3.11～

東日本大震災の記憶と震災から得た教訓を風化させないという思いから、毎年3月11日にキャンドルを灯す活動を行っています。災害への備えについて知り考えるミニ学習会も開催し、震災の記憶と教訓を参加者一同で共有します。3月9日～11日はキャンドルづくりのワークショップも行います。

日時：2019年3月11日（月）14:30～

場所：鶴岡協同の家こぴあ（鶴岡市余慶町1-2）

4. シンポジウム「戦後日本の写真史と文化運動」開催

人文社会科学部映像文化研究所が推進している地方写真文化史研究の一環として、国内第一線の研究者を招き、シンポジウムを開催します。

日時：2019年3月16日（土）13:30～17:00

場所：山形大学小白川キャンパスC1（人文社会科学部1号館）103教室

5. 山形大学学位記授与式等の取材に対するお願い

山形、米沢、鶴岡の各地区並びに各附属学校園において挙げる学位記授与式等についてご案内します。取材の際は、式典の円滑な進行にご協力くださいますようお願いいたします。

6. 「山形大学SCITAセンターサイエンスカフェ」を開催

～大人も子どもも自然科学を楽しく語ろう～

世代間でより科学を身近に感じ楽しんでもらうため、大人を対象としたサイエンスカフェ、子どもを対象とした科学実験イベントを同時開催します。

日時：2019年3月26日（火）14:00～16:00

場所：山形大学小白川キャンパスA5（基盤教育3号館）1階オープンスペース

※これまでの定例会見でお知らせしたもので、開催が迫っているイベント

◎シンポジウム「ネットワークによる山形のダイバーシティ推進～現状と今後の展開」を開催

開催日時：2019年3月8日（金） 14：00～16：30

会場：小白川キャンパスC3（法人本部）3階第一会議室

平成31年（2019年）3月4日

テーマは学生目線 新・合同企業説明会を開催 ～就活シーズン到来の3月 参加企業約300社を5つのエリアで紹介～

【本件のポイント】

- 2020年3月卒業・修了予定の大学3年生、大学院1年生を主な対象とした「山形大学合同企業説明会」を3月12日(火)・13日(水)に山形市で開催
- 参加企業・団体の約300社を「社風」や「成長企業」など5つのエリアで紹介、OB・OG等若手社員との懇談、オリジナルフルカラーのPRシート等で、学生が本当に情報を求めやすい説明会に大幅リニューアル
- 山形の企業就職を希望する東北の他国立大学学生の参加を積極的に受入、3月に企業エントリーが開始する「2020就活生」を全面サポート

ポイント 5つのエリア分けが特徴！



【概要】

山形大学では、2020年3月卒業・修了予定の大学3年生、大学院1年生を主な対象とした「山形大学合同企業説明会」を、3月12日(火)・13日(水)に山形ビックウイング（山形市）で開催します。学生の意見をもとに大幅にリニューアル。参加企業・団体約300社を「成長企業・リーダー企業」「福利厚生・社員教育充実企業」「社風が特徴の企業」など5つのエリアに分けて紹介、フルカラーのオリジナルPRシート、OBOG訪問が可能など、学生が本当に情報を求めやすい企業説明会とした。

3月に企業エントリーがスタートし、就職活動が本格化する「2020就活生」を全面サポートします。

【学生目線でのわかりやすさにこだわった 新・合同企業説明会の3つのポイント】

- ▶ 5つのエリア分けが新しい！わかりやすい！
「成長・リーダー企業」「給与水準の高い企業」「安心して地域で働くことのできる企業」「福利厚生・社員教育充実企業」「雰囲気がい社風が特徴の企業」の5つのエリアに企業ブースを配置、OBOGの出身学部の色分け表示も掲示。
- ▶ OB・OG等若手社員との懇談が中心！同会場でOBOG訪問も可能！
1ターム30分の説明を全9回開催、各回にOBOG等若手社員から生の声を聞くことができる時間帯を設定。最後の1時間はOBOG等若手社員のみとの時間とし、合同企業説明会会場でOBOG訪問が可能。
- ▶ 山大オリジナルのフルカラーPRシートに今回だけの情報が満載！
会社情報が一目でわかる、この説明会限定の企業PRシートを配布。大学おすすめポイント、顔写真付きの先輩の志望動機や入社後の魅力、平均勤続年数、離職率、月平均所定外労働時間など多数の情報を掲載。



お問い合わせ
小白川キャンパス事務部 学生キャリア支援課就職担当
TEL. 023-628-4129

平成31年（2019年）3月4日

高校生対象「世界へトビタテ！－山形から留学を考える－」を開催

【本件のポイント】

- 山形県内の高校生を対象に、本学で体験できる留学プログラムを紹介。
- 留学への関心を高め、大学入学後の留学への機運を醸成することが狙い。
- 本学の学生が主体となり、企画・運営



【概要】

山形県内の高校生を対象に、大学入学後の留学への機運を醸成するため、本学で体験できる留学プログラムを紹介する「世界へトビタテ！－山形から留学を考える－」を開催します。

本学で留学を経験した学生が、自身の体験をもとに、各留学プログラムについてのプレゼンテーション発表、パネルディスカッション、ポスターセッションを行います。

高校生の他、大学生の参加も可能で、事前申し込みは不要です。

【イベント内容】

- 日 時：2019年3月16日（土）13：00～16：00
- 場 所：山形大学小白川キャンパスA5（基盤教育3号館）312教室
- 内 容：山形大学で体験できる留学プログラムを紹介
（プレゼンテーション発表、パネルディスカッション、ポスターセッション）
- 対 象：山形県内の高校生（ただし、大学生も参加可能）
- その他：事前申し込み不要

主催：世界へトビタテ！実行委員会（トビタテ！留学 JAPAN「地域人材コース」やまがたの未来を切り開くグローバル人材育成プログラム山形大学第1期生）

お問い合わせ

山形大学教育・学生支援部国際交流課 今野・三浦

TEL 023-628-4118 メール rgkokusai@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

主催：世界へトビタテ！実行委員会「トビタテ！留学JAPAN」地域人材コース
やまがたの未来を切り開くグローバル人材育成プログラム山形大学第1期生)

IT'S YOUR TURN!

世界へトビタテ！

—山形から留学を考える—



2019年3月16日（土）13：00～16：00
山形大学基盤教育3号館312教室（小白川キャンパス）

高校生に語る山大生の留学体験

◎プレゼンテーション発表 ◎ポスターセッション ◎質疑応答
山形大学に入ると体験できる様々な留学プログラムについて、実際に留学を体験した先輩たちから、各留学プログラムの内容をお伝えします！

交換留学
(6ヶ月～1年)

トビタテ！
留学JAPAN
地域人材コース
(1～2ヶ月)

学生大使
(2～4週間)



事前申込不要・当日会場にお越しください。出入り自由です。

大学生も参加可能です。
お気軽にお越しください。

お問合せ：山形大学教育・学生支援部国際交流課
TEL 023-628-4118 FAX 023-628-4491

平成30年（2018年）3月4日

「8年目のCandle night」を開催 ～Candle Night in 鶴岡 つながる灯火 on 3.11～

【本件のポイント】

- 東日本大震災の記憶と震災から得た教訓を風化させないという思いから、震災翌年の2012年から毎年3月11日にキャンドルを灯す活動を行っている。
- キャンドルは、1年をかけて市民参加のワークショップで製作した。
- 災害への備えについて知り考えるミニ学習会を、鶴岡市防災安全課の協力の下に行う。



【概要】

学生、市民、市民団体で構成される8年目のCandle Night実行委員会が同イベントを行うのは今回で8回目。鶴岡市と山形大学農学部の共催、鶴岡市社会福祉協議会と鶴岡市教育委員会の後援のもと、2019年3月11日（月）18時に、「鶴岡協同の家こびあ」でキャンドルや竹灯籠を一斉に灯します。

キャンドルは、一年を通して市民参加ワークショップにおいて作ったものです。当日14時30分からは『追悼と防災のつどい』として、地震発生時刻に犠牲者への黙祷を捧げた後、鶴岡市長および実行委員会からのメッセージを発信します。続いて、災害への備えについて知り考えるミニ学習会を鶴岡市防災安全課の協力の下に行います。そして18時30分から『キャンドルの夕べ』を同会場で行います。こびあ屋外でキャンドル・竹灯籠を一斉に灯します。その灯火をながめつつ、市民有志による合奏・合唱に耳を傾け、震災の記憶と教訓（災害に対する備えなど）を参加者一同で共有します。参加は無料です。

【背景】

震災発生から1年が経過しようとしていた2012年2月、仙台から鶴岡に避難してきた1人の女性がSNS（Facebook）上で発した「1年目となる3月11日に私は何ができるのだろうか」といった思いに多くの学生・市民が共感し、庄内に暮らす私たちにできることを考え、「3.11のCandle Night」を始めました。

【3/11（月）スケジュール】 ※会場：鶴岡協同の家こびあ（鶴岡市余慶町1-2）

14：30～15：30 追悼と防災のつどい

18：00 キャンドル点灯

18：30～20：00 キャンドルの夕べ

【キャンドル作りワークショップ】

3月9日（土）10：00～13：00／15：00～18：00

3月10日（日）10：00～13：00／15：00～18：00

3月11日（月）10：00～13：00

※参加は全て無料。事前申込み不要。

※中古・未使用のロウソクをお持ちの方はご持参ください。キャンドル作りに再利用します。



お問い合わせ

学術研究院准教授 菊池俊一（農学部担当）
（8年目のCandle Night 実行委員会委員長）
TEL 0235-28-2880

あの日から8年 未来を想う私たちが

柔らかな灯火で ひとつにつながる夜

8年目のキャンドルナイト

Candle Night

Candle Night in 鶴岡 - つながる灯火 on 3.11 -

2012年から始まった3.11のCandle Night キャンドルを静かに灯しながら
過去に黙祷し 安らかな未来を願い 想いを共有しましょう

3月11日[月] 18:00 キャンドル点灯



主催: 8年目のCandleNight実行委員会 | 共催: 鶴岡市・山形大学農学部 | 後援: 鶴岡市教育委員会・鶴岡市社会福祉協議会

8年目の キャンドルナイト Candle Night

Candle Night in 鶴岡 - つながる灯火 on 3.11 -

3月11日[月] スケジュール

14:30-15:30 追悼と防災のつどい

18:00 **キャンドル点灯**

18:30-20:00 **キャンドルの夕べ**

開催場所 鶴岡協同の家
こぴあ

3.11に灯すキャンドルを作るワークショップです。
どなたでもご参加いただけます。事前の申込みは不要です。

キャンドル作りワークショップ **参加無料**

3/ 9[土] 10:00-13:00 / 15:00-18:00

3/10[日] 10:00-13:00 / 15:00-18:00

3/11[月] 10:00-13:00

酒田同時開催

酒田中町にぎわい健康プラザ
(マリーン5 清水屋前)にて点灯

18:00-19:30



写真 募集

あなたのキャンドルナイトを投稿してください

みなさんのご家庭・職場などで灯したキャンドルの写真をコメントと共に下記アドレスまで投稿下さい。
みんなの想いをネット上で共有(シェア)しましょう。下記FBページへの投稿もOKです。

写真はこちらのメールかFBへ! ✉ shonai.c.n@gmail.com



Facebookにて最新情報配信中!
facebook.com/candlenight.3.11

お問合せ TEL: 0235-28-2880

菊池俊一(8年目のCandle Night実行委員会/山形大学農学部内)

平成31年（2019年）3月4日

シンポジウム「戦後日本の写真史と文化運動」開催

【本件のポイント】

- 来る3/16（土）、小白川キャンパス人文社会科学部において、人文社会科学部附属映像文化研究所主催のシンポジウムを開催。
- 映像文化研究所が推進している地方写真文化史研究の一環として、国内第一線の研究者を講演者に招く。
- 近代日本における〈リアリズム〉概念を、写真史研究、文化運動史研究、文学研究それぞれの立場から、多角的に検討。



【概要】

2019年3月16日（土）、13:30～17:00、山形大学小白川キャンパスC1（人文社会科学部1号館）103教室で、人文社会科学部附属映像文化研究所が主催するシンポジウム「戦後日本の写真史と文化運動 〈リアリズム〉のゆくえ」を開催する。

人文社会科学部映像文化研究所は、これまで、東北全域の写真文化史についての研究を進めてきており、その成果として、明治期、大正～昭和初期に関する報告書2冊を公刊している。今回のシンポジウムは、東北に限らない、全国的な文化運動史研究の中に、本研究所の成果を改めて位置づけ直し、進展をはかる。

講演者は日本カメラ財団の白山眞理氏、早稲田大学の鳥羽耕史氏、という、それぞれ現在の写真史研究、文化運動史研究を代表する研究者。他登壇者は秋田大学山崎義光氏、東洋大学佐々木悠介氏、山形大学人文社会科学部森岡卓司。

一般来聴歓迎、事前申し込みや聴講料など不要。

【背景】

日本文化研究の領域において、労働運動、教育、報道などの社会的な事象と、文学や美術などの芸術ジャンルが深く関わり、文化ジャンルの再定義が試みられた時代として、1950年代文化運動史に注目が集まっている。1950年代文化運動は、中央メディアに特化するのではなく、ローカルなメディア／社会環境に展開された点にも特色がある。

【研究手法・研究成果】

現在も一般的に用いられる〈リアリズム〉という概念が、1950年代の写真文化、美術、映画、文学などの領域で問題化された具体的な様相を検討し、この時代に、各地方のローカルメディアにまで広がった大きな文化運動の特質を明らかにする。

【今後の展望】

このシンポジウムを通じて、本研究所が推進してきた地方写真史研究の歴史的価値が改めて認知され、地方文化研究に寄与することが期待される。

お問い合わせ

学術研究院 准教授 森岡卓司（日本文学）

TEL 023-628-4287 メール morioka@human.kj.yamagata-u.ac.jp

シンポジウム

戦後日本の写真史と文化運動

〈リアリズム〉のゆくえ

2019年3月16日 (土)

13:30~17:00

山形大学小白川キャンパス
人文社会科学部1号館103教室〒990-8560
山形市小白川町1-4-12

占領が終わり、戦後日本の本格的な歩みがはじまった1950年代は、政治や経済だけではなく、文化運動においても、現在につながる新たな基盤を形作るべく、さまざまな模索が行われた時代だったととらえられよう。

ここで、「文化運動」ということばは、芸術諸ジャンルの単なる総称、という意味ではない。むしろ逆に、1950年代は、労働運動や教育、報道といった現実的な社会的事象、言説に深く関わりながら、文学や美術などの芸術ジャンルが、既成の枠組みを変更し、その再定義を試みた時代だったととらえられよう。その意味で、文化運動と呼ぶにふさわしい広がりやダイナミズムがそこにはもたらされたといえる。しかし一方で、ジャンルごとの独自性とそれぞれに固有の史的展開を前提にしてきたこれまでの文化研究においては、その時代の試行錯誤に含まれた豊かさが往々にして見過ごされてきたことも、また否定し難い。

今回の企画では、それぞれに異なる研究領域において、戦前、戦中からの連続性と変化とを通して1950年代の問題性を魅力的に提起し、ジャンルを超えた学際的な研究の重要性を主張してこられた講師、コメンテーターをお招きし、広義の〈リアリズム〉概念を結びの糸として、1950年代日本の文化運動の多様性と可能性に迫ってみたい。

-主催-

山形大学

人文社会科学部附属

映像文化研究所

プログラム

【講演】(13:30~15:30)

- 白山 真理 (一般社団法人日本カメラ財団)
「〈報道写真〉からリアリズムへ」- 鳥羽 耕史 (早稲田大学)
「サブ・リアリズムの射程 — 美術、文学、映画における底辺・周縁への視線」

【コメントと討議】(15:50~17:00)

コメンテーター：山崎義光 (秋田大学)

佐々木悠介 (東洋大学)

司会：森岡卓司 (山形大学)

※ 事前申込不要

※ どなたでも自由にご来聴いただけます

〒990-8560 山形市小白川町1-4-12 山形大学人文社会科学部1号館

問い合わせ E-Mail : morioka@human.kj.yamagata-u.ac.jp | <http://www-hs.yamagata-u.ac.jp>

平成31年（2019年）3月4日

山形大学学位記授与式等の取材に対するお願い

【本件のポイント】

- 各会場では、係員の指示に従っていただき、式典の円滑な進行にご協力をお願いいたします。
- 学長告辞については当日に配付いたしますが、式終了後に公表願います。
- 事前の取材申し込みは不要です。



【概要】

平成30年度学位記・修了証書授与式等を山形、米沢、鶴岡の各地区並びに各附属学校園において挙行いたします。式当日の取材に際しては、壇上での撮影は差し支えありませんが、式進行の妨げとなるような行為は慎んでいただき、円滑な進行にご協力をお願いいたします。

また、学長告辞については当日に配付いたしますが、式終了後に公表願います。

【山形地区】

- 人文学部・地域教育文化学部・理学部・医学部・養護教諭特別別科・社会文化システム研究科・地域教育文化研究科・理工学研究科（理学系）・医学系研究科・教育実践研究科
- 日 時：平成31年3月25日（月）11：00開式
会 場：山形県体育館（山形市）

【米沢地区】

- 工学部・理工学研究科（工学系）・有機材料システム研究科
- 日 時：平成31年3月21日（木・祝日）11：00開式
会 場：米沢市営体育館（米沢市）

【鶴岡地区】

- 農学部・農学研究科
- 日 時：平成31年3月17日（日）11：00開式
会 場：東京第一ホテル鶴岡（鶴岡市）

【附属学校】

- 附属幼稚園
日 時：平成31年3月15日（金）10：00開式
会 場：附属幼稚園遊戯室
- 附属小学校
日 時：平成31年3月19日（火） 9：00開式
会 場：附属小学校体育館
- 附属中学校
日 時：平成31年3月16日（土） 9：00開式
会 場：附属中学校体育館
- 附属特別支援学校
日 時：平成31年3月18日（月）10：00開式
会 場：附属特別支援学校体育館

お問い合わせ

総務部総務課（総務担当）TEL 023-628-4006

平成31年（2019年）3月4日

「山形大学SCITAセンターサイエンスカフェ」を開催 ～大人も子どもも自然科学を楽しく語ろう～

【本件のポイント】

- 山形大学SCITAセンター学生スタッフが企画して専門家の協力を得て、ゴミ問題を通して科学の楽しさを伝える。
- 親と子に共通の科学の話題を提供して、帰宅後は家庭で楽しく科学の話題を展開することができる。
- 途中でお菓子とお茶を楽しみながら大人には講演、子供には科学実験で科学を身近に感じてもらう。



【概要】

平成31年3月26日（火）に、山形大学小白川キャンパスA5（基盤教育3号館）1階オープンスペースにおいて、世代間でより科学を身近に感じ楽しんでもらうため、大人を対象としたサイエンスカフェ、子どもを対象とした科学実験イベントを同時開催します。山形大学SCITAセンター学生スタッフが企画・実施するもので、2月に続き今回2回目となります。サイエンスカフェでは専門家による一般人向けの講演を基に、参加者間が話し合いを行い、提供するテーマと身近な社会との関連性を意識してもらうことで、科学の知識・理解を深めます。科学実験イベントは、サイエンスカフェと同テーマでショーや実験など実施し、親子連れでも気軽に参加できるよう配慮しました。親子間での共通の話題を提供することで、イベント終了後も家庭で科学についての共通話題を展開することができるものと考えています。

【イベント内容】

開催日時：平成31年 3月26日（火） 14時～16時
会場：山形大学小白川キャンパスA5（基盤教育3号館）1階オープンスペース
募集人員：大人 30名 子ども 30名 計 60名 ※申込み多数の場合は抽選
料金：大人500円 子ども 300円
申込〆切：平成31年 3月15日（金）

<サイエンスカフェ> 大人向け

テーマ 「ゴミ問題について」

講師 株式会社クリーンシステム 企画部企画課 高田 裕太 氏

<科学実験イベント> 子供向け

テーマ：「ゴミ問題についてって？」

対応：山形大学SCITAセンター学生スタッフ

※ 山形大学SCITAセンター学生スタッフは、子供たちの理科離れに歯止めをかけようと科学の啓蒙を目的とするボランティア団体です。主に小学生以下を対象に科学実験教室等を開催し、子どもにも保護者にも好評を得ています。独自の活動に加え、やまがた「科学の花咲く」プロジェクトのサイエンス・コミュニケーター（スライムマイスター、クラゲマイスター、蔵王マイスター、月山マイスター）が実施している地域や家庭で科学の不思議さや面白さを教えるイベント等でも活躍しています。

お問い合わせ

山形大学SCITAセンター（棚井）

電話 023-628-4517

Science Café

～山形大学 SCITA センターサイエンスカフェ～

私たちの生活に関係する様々な問題。
科学的な視点を持つことで、解決策や今まで気がつかなかった問題を見つかることができるかもしれません…

第2回 『ゴミ問題について』

ゴミはなぜ分別しなければいけないのか。
もし分別をしなかったらどうなるのか。

このような疑問を持ったことはありませんか…？

カフェにいるような気分で、身近なゴミの問題について
楽しく話し合ってみましょう。

日 時：3月26日(火)

13:30 受付開始

14:00 開始

16:00 頃終了予定

場 所：山形大学基盤教育棟3号館1F オープンスペース

〒990-8560 山形市小白川町1-4-12

※お車でのご越しの方は学内の駐車場をご利用ください

ディレクター：山形大学理学部1年 筒井佳菜

対 象：大人・中学生以上(定員30名)

子ども・年長～小学校6年生(定員30名)

(お申込多数の場合は抽選とさせていただきます)

親子での参加も歓迎します！

参 加 料：大人500円、子ども300円

お申込締切：3月15日(金)

申込用紙の郵送・メール・お電話にて受け付けます



申込用紙はこちらから

主催：山形大学 SCITA センター学生スタッフ

やまがた若者チャレンジ応援事業